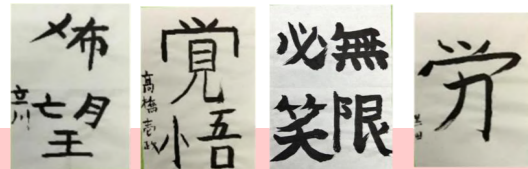


みんなで！みんなの作品展

各作業所にてお正月にちなんだ作品を作りました。



書き初め 東大阪事業所



手作りカレンダー作成
ポンチセピリか・第2 ぴりか



年賀状イラスト そらまめ作業所

..... 編集後記 2026 1・2・3 ちいさな家から

午年にあたる2026年(令和8年)は、情熱や変化を象徴する年とされると共に、60年に1度巡ってくる丙午の年になります。

丙午の年は江戸時代に広まった迷信によりネガティブなイメージが先行しますが、今の若い世代では迷信を知らない人が増え、現在は「情熱と行動力で突き進む」「燃え盛るようなエネルギーで道を切り開く」というポジティブな認識へと変化しています。

私がつむぐニュース編集担当になり今年の春で5年目を迎えます。実力不足によりうまくデザインできず大変なこともあります。レイアウトの勉強しながら楽しく編集作業をさせて頂いております。

丙午の年にあやかり来年度はもっと皆さまに読んでいただける紙面づくりに挑戦したいと思います。

生活支援センターコットン 井上 博子

QUOカード
1000円分プレゼント!

前号の読者アンケートにご協力頂き、ありがとうございました。厳正なる抽選の結果、当選された方はこちらです。

K・Kさん O・Hさん

保険 自動車・火災
ガン・医療・生命保険 のことなら

東京海上日動・東京海上日動あんしん生命保険代理店

(株)ティ・エフ・ピー提携代理店

TEL.072-771-7277 FAX.072-771-7278

お気軽に
ご相談ください
(株)ティ・エフ・ピー提携代理店
は社会福祉法人つむぎ福祉
社会の運動を応援していま
す!



書き初め：生活介護 kakara

P2 **主張** 2026年 年頭にあたって つむぎ福祉会の課題と取り組み

P3 リレートーク[そらまめ作業所]

P4-5 **特集** - 2026年度の抱負 -
つむぎのゆめ

P6 社会福祉のあり方[ポプラ保育園・千代崎ポプラ保育園]

P7 オープンダイアログ実践推進のための研修会のご報告

P8 みんなの作品展[東大阪事業所等]・編集後記

別紙

すきつながら
私の推しスポーツ

主張

2026年 年頭にあたって

つむぎ福祉会の課題と取り組み

新年あけましておめでとうございます

すべての人が幸せを感じる年になることを心から祈念しています

社会福祉法人つむぎ福祉会
理事長 泉本 徳秀

■多様な人を受け入れる社会の実現

社会福祉の現場では、人手不足が課題となっています。既存の事業を維持するのが精いっぱい、新規の事業に着手できずにいます。しかし、利用者の多くは、住み慣れた地域で知った仲間との暮らしを望んでいます。それに応えるために、つむぎ福祉会では、4月からインドネシア人の留学生を迎えることにしました。日本で優れた介護技術を習得し、高齢者や障がい者の役に立ちたいという高い志をもって、国を離れ日本に来てくれます。

私たちは、人手不足解消という目先の問題解決だけでなく、多様な人が力を発揮できる組織作りが事業の発展に不可欠だと思います。外国人だけでなく、障がい者、生きづらさを有する若者、高齢者など、何らかの理由で社会に出にくい人たちが多くいます。そういう人たちとともに働く職場づくりに取り組むことをめざしていきます。



■美点凝視(良いところをみる)

今回のニュース6面の保育園の取り組みで、「得意な職員が得意な分野のことは行いながら自分らしく輝いて、チームとしてお互いに補い合っって一つの保育園を築いていくというやり方」の紹介がありました。美点凝視で、良い点に焦点を当て、相手の成長を促し、自分自身も心豊かにしていきたいと思えます。そうすることが、組織と事業の発展につながります。

■対話を軸にした関係づくり

つむぎ福祉会では、5年前からオープンダイアログ(OD)の学習や実践に取り組んできました。昨年は、全事業所から実践報告を行なうことができました。7面に報告がありますが、専門家でなくても、理解できたところから始めてみることで、職員、利用者との関係性が変化していきます。多様な人が力を発揮できる組織作りには、対話が不可欠です。急いで答えを出すのではなく、対話を続けることで新たな発見を得ることができます。

つむぎ福祉会は、利用者家族の皆様と職員が手をたずさえながら力を発揮して、事業を進展させていきたいと思えます。皆様のお力添えをお願い致します。

つむぎ福祉会主催 オープンダイアログ実践推進のための研修会のご報告

2025年11月1日、森川すいめいさんと村上純一さん(琵琶湖病院)を研修講師としてお招きして行いました、「オープンダイアログ(以下OD)実践推進のための研修会」の内容を報告いたします。

参加者 計13名

- ・ファシリテーター 森川すいめいさん(F1)、村上純一さん(F2)
- ・コーディネーター 酒井ひとみさん
- ・つむぎ福祉会職員 6事業所各1~2名参加+本部2名参加



研修の流れ

1 | アイスブレイク

各自、好きな楽器を付箋に描く。自己紹介と描いた楽器を選んだ理由と今日の研修で期待することを話す。

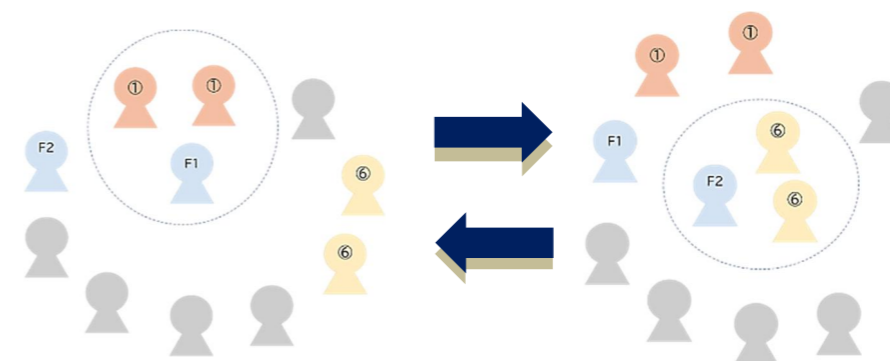
2 | 実践報告の順番決め

ポプラ保育園⇒②自立支援センターゆう⇒③ポンチセびりか⇒④生活支援センターコットン⇒⑤そらまめ作業所⇒⑥生活介護 kakara 報告に対してリフレクティングをする順番も決定。⑥⇒⑤⇒④⇒③⇒②⇒①。
*例えば①ポプラ保育園が実践報告の際は⑥生活介護 kakara がリフレクティングチームに参加する。

実践報告の方法

(1)F1の進行で①の2名がOD実践報告を5分程度で話す

(2)F2と⑥の2名で、話を聞いてどう感じたかをリフレクティングする



(3)リフレクティングに対して①はどう感じたかまた話をする

感想

・ODを理解して実践できているわけではないと思っていたけれども、研修のなかで自信がもてた。
・フィードバックをもらって、また次の実践をやってみようと思った。

総括

ODは、実践し、体感することが大切だということに確信がもてた研修でした。理解できたところから対話を進め、対話の中から発見が生まれ、対話を継続していくうちに、ひとり一人が尊重されている風土ができていくことを期待しています。

法人理事:中谷路子

OD実践報告では、事業所毎のそれぞれの創意工夫やユニークさに感銘を受けました。5年前に始まったOD勉強会を経て、各事業所でのOD実践へと繋がり感慨深いです。この研修が大きな力になったと思えます。

つむぎ福祉研究所 OD研究顧問:酒井ひとみ

社会福祉事業のあり方 保育分野

2025年10月、児童福祉法等の改正法が施行され、保育所や認定こども園の職員による虐待の通報が義務化されました。近年問題となっている「不適切保育」への対応策であります。 「不適切保育」の根本的な解決になるでしょうか？

私たちは積極的にこどもの人権を守るため、また職員一人ひとりが個性を発揮するために何が必要なかポプラ保育園の保育を通して、「不適切保育」の解決について考えてみました。

保育園の取り組み

描画活動

「絵は見るだけでなく聴くもの」という考えで、マンツーマンでこどもと視線を合わせてこどもの話にしっかりと耳を傾けながら聴きその内面のメッセージを書き留めます。

点々やぐるぐる丸を描き始めた乳児にも寄り添って「大きな丸だね」「楽しいね」などと共感しながらその様子を書き留めます。

こどもは共感してもらったことで保育者との特別なひとときを過ごしたという感覚を持ち、自己肯定感が育まれます。

職員間で指摘し合える関係づくり

職員会議の場で具体的に意見を出し合ったり、こどもたちへの声掛けの言い換えのテクニックを提案し合って保育を振り返る機会を持ち「まずは職員間で指摘し合える関係」にしていきたいと思ひます。



「こどもとの共感」・他者の立場になり、想像力を膨らませること・互いの個性を認め合うこと・指摘し合える人間関係づくりが、「不適切保育」の解決につながるのではないのでしょうか。

私たちはともに育ちあえる園を目指して取り組んでいきたいと思ひます。ポプラ保育園 佐久 愛

共に育ちあえる保育園

ポプラ保育園の理念に「こどもも保護者も職員も、お互いの立場を尊重し、連携し、共に育ちあえる保育園」とあります。これはこどものこともおとなのことも軽視せず、一人の人格として尊重し、自分らしく生きる権利を守るという大切な考え方です。

ごっこ遊び

幼児期には対話を通じて他者の考えを取り入れ、自分で選び取る力を養います。

「ごっこ遊び」では自分以外の他者の立場になり、想像力を膨らませ言動することにより「自分も大切、他者も大切」という人間関係の基本を身につけます。

こうした取り組みは、学齢期以降の「学びに向かう力」や「自分らしく生きる力」へとつながります。

互いの個性を認め合うチーム

「保育士だからピアノが必須」「苦手でもカブトムシを幼虫から育ててください」といったことは求めています。

それぞれの職員が得意な分野のことを行いながら自分らしく輝いて、チームとしてお互いに補い合っ一つ一つの保育園を築いていくというやり方です。

このことでお互いの個性を認め合い、職員同士が風通しの良い関係になっていると思ひます。

Relay talk 私たちの推しポイントを紹介☆

リレートーク

そらまめ作業所 1階パン工房 2・3階軽作業


そらまめ作業所の推しポイント 毎日来たくなる作業所

そらまめ作業所では、「毎日来たくなる作業所」を目指し、利用者主体の取り組みを行っています。

作業・余暇活動の工夫


作業

工程を細かく分け作業を分担し、一人で完結できる場を作っています。治具を作成し自分でできる作業が増えるような工夫も行っています。




余暇

身体を動かす機会を増やすためにeスポーツのボウリングを取り入れたゲームに取り組んでいます。身体も動かせ、得点が出るので老若男女問わず競い合っ楽しんでます。



予定確認

ホワイトボードにマグネットで取り組み内容を貼り、朝礼時に確認しています。



小さなことも自分たちで決める

なかまの自治会

年に1回選挙で代表を決め、毎月会長が進行して、自治会を開き、外食の場所やクリスマス会で飲みたものを決めてます。



少人数での取り組み

調理実習や創作活動、書道など複数の取り組みがあり、自分で選択して気の合った仲間と参加しています。



利用者が安心できる職員集団

利用者が安心して通うためには、それを支える職員集団が不可欠です。コミュニケーション研修や意見交流を定期的に行い、職員間のチームワークを高めています。また、余裕のある職員配置を行い、利用者にきめ細かな対応出来るような職場体制を整備しています。

利用者たちの声

作業を職員が丁寧に教えてくれ見てくれている、思ってくれていると伝わってくるので作業に自信がついた。余暇活動のゲームやカラオケが楽しく、幅広い年代の人としゃべることができて面白い。毎日そらまめへ行きたい早く明日になって欲しいと思っ。

支援員の声

安定した作業の提供や作業へのやりがいを持っている人もいます。取り組みの数も多く自分で選んで参加しているし、自分にマッチしているものが見つけられる。職員との会話を楽しみにされていると感じる。

今後について

なかまの自治会活動を発展させ、利用者の声を大切に、利用者の意志を尊重して、利用者がやってみたいことを実現していきます。



- ・甘いものをたくさん食べに行きたい Y.T
- ・お仕事を頑張りたい! R.T
- ・阪神タイガースを応援する! K.I
- ・友達と仲良くしたい S.K
- ・病気を治したい H.Y

生活介護 Kakara



最近始めたアーモンドチュール作成を上手になりたいです。

ポンチセぴりか
徳山 望美さん



Dream big, start small, act now.

つむぎのゆめ

つむぎのゆめと題して2026年の抱負を皆さんへ聞いてみました。各施設の今年の抱負を漢字で表したものをご紹介♪夢が現実に近づけるよう今年も楽しい一年になりますように。

お口の訓練を試みなどと話すことを頑張ります。
第2ぴりか作業所 平尾 知佳さん

- ・たくさん遊びに行きたい!健康に過ごす! 原 初枝さん
 - ・仕事を頑張って、現金を稼ぎます 山口 達也さん
 - ・部屋をきれいにしたい 田島 弘一さん
- 生活支援センターコットン 利用者



外に出られるようになって、セルフレジで買い物ができるようになりました。次は店員さんに声をかけて買ってみたいです。

東大阪事業所 利用者

昔楽器をやっていたので、2026年はドラムに挑戦したいです。釣りもやりたいです。
ぴりか工場 Y・A



外出頻度(カードバトルをしに行く)増やす。 東大阪事業所 利用者

就職したい。何か成し遂げたいと思っているが、まず分かりやすいのが就職になる。 東大阪事業所 利用者

- ・逆上がりができるようになりたい(Sちゃん)
- ・前回りできるようになりたい(Rちゃん)
- ・なわとびいっぱいとべるようになりたい(Kくん)
- ・折り紙でいろいろ折れるようになりたい(Sくん)
- ・折り紙で手裏剣折れるようになりたい(Rくん)
- ・お料理やってみたい(Mちゃん)
- ・水族館行っていろんな魚見たい(Aくん)
- ・東京行きたい(Rちゃん)



ポプラ保育園・千代崎ポプラ保育園

みんながたくさん笑いあえる活動を考案し提供していく。
生活介護 Kakara

希

子どもたちの夢や、希望が叶いますように。
ポプラ保育園
千代崎ポプラ保育園

その一步一步が、大きな挑戦である。
東大阪事業所

漸進向上

和

心が和むような温かい時間を。
生活支援センターコットン

原点回帰

「当たり前」という考えを取り払い、原点に立ち返る。
ポンチセぴりか
第2ぴりか作業所

楽

気楽に過ごせる安心感と、楽しく前向きに働く姿勢。
そらまめ作業所